

全三井の大会3連覇ならず

第60回全三井・全三菱テニス大会

第六〇回全三井・全三菱テニス大会が東京都武蔵野市の三菱東京UFJ武蔵野コートで一月二三日に開催された。ダブルス二七試合の熱戦の結果、全三井は二勝一五敗で全三菱に敗れ、大会三連覇を逃した。これで通算の対戦成績は全三井の二六勝三二敗三分(中止)となった。



絶好の秋晴れに恵まれた大会当日

昨年、二年連続で全三〇二〇年までに対戦成績を破り、東京五輪の二を五分に近づけた全三井グループ各社から実業団やOBなど二七組五名の選手が結果した。出場会社はOBを含め、三井住友海上、三井住友信託銀行、三井住友

井。今年も三井グループのテニスクラブ・浜田山ロンテニス倶楽部の栗岡威会長(元三井住友海上副社長)の呼びかけのもと、三連覇を目指して三井グループ各社から実業団やOBなど二七組五名の選手が結果した。出場会社はOBを含め、三井住友海上、三井住友信託銀行、三井住友



一般男子の会田・富崎組(海上)

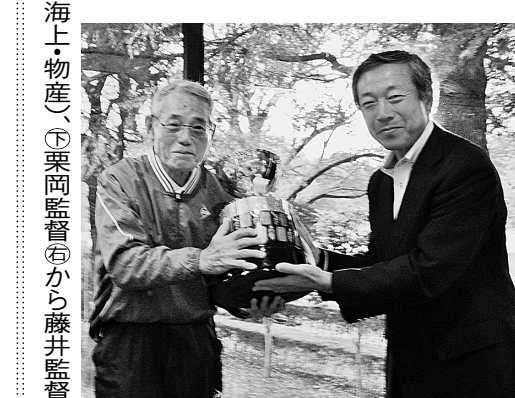


女子の秋葉・高橋組(エーム)

銀行、三井物産、三井不動産、三井生命、エームサービス、三井造船、日本ユニシス、三井鉱山、日本トレーディング、東燃ゼネラル石油の一二社。試合はファイナルセットを二〇ポイントのマッチタイブレーク方式とする三セットマッチ形式。全てダブルスで一般男子

一三、ベテラン(四五歳以上)三、シニアベテラン(五五歳以上)三、グランドベテラン(六五歳以上)三、女子五の計二七試合を行い、一四勝以上したチームを勝ちとする。今回は六〇回大会を記念して、女子を三試合増やした。大会幹事は全三井。当日は絶好の好天に恵まれ、秋晴れの下、

海上の精鋭で固められ、六勝四敗とリードする。有力新人の早稲田大学出身・遠藤選手、甲南大学出身・沼野孝彰選手のほか、元早稲田大学テニス部主将・富崎優也選手や元慶応大学テニス部主将・会田翔選手など必勝の陣容で対戦した。対する全三菱も海上、商事、生命などの実力選手が勢揃い。両者一歩も譲らぬ激戦の結果、全三井は第三連覇までの三試合で予想外の全敗を喫す。しかし、後続が挽回し、一般男子では七勝六敗と勝ち越しに成功。後半は全体で一〇勝一〇敗と五分に渡り合うも、女子五試合の全敗などが響き、二勝一五敗で惜敗三連覇を逃した。



④グランドベテランの栗岡・吉井組(海上物産)、⑤栗岡監督(右)から藤井監督へ優勝杯が渡された

は全三井の二六勝三二敗三分となった。試合後は懇親会が開かれ、全三井・全三菱両者の健闘を讃えるとともに、テニスを通じたグループ交流を深めた。全三菱・藤井道雄監督(電機OB)「ギリギリの勝利。三連敗はできない。女性が活躍していく時代を象徴した」全三井・栗岡威監督(海上OB)「六〇回の記念大会に勝ちたかったが一歩及ばなかった。東京五輪まで五連覇を目指す」

明治安田生命組に雪辱を期す

エームサービス 高橋 愛 さん



日本リーグ常連の女子実業団・エームから出場した秋葉さん(二六)と秋葉さんは元園田学園女子大学テニス部主将、高橋さんは青森大学で鍛え上げた。秋葉さんはコーチを務める高橋さんとペアを組んでの出場は初めて。「(高橋さんは)ミスをして落ち込まないし、よく粘ってくれるので助かる」。相手は同じく実業団の明治安田生命・大竹松田組。秋葉さんにとっては昨年も敗れた対戦相手だ。第一セットは3-1とリードするも逆転さ

れ、3-6に。続く第二セットも勝ち切れず、4-6で今年も涙を飲んだ。「相手はセンターセオリーを貫き、コート外にも走らされた」と秋葉さん。高橋さんは「(相手の)深いストロークに苦しんだ」と敗因を語る。結果は振るわなかったものの、今年も今冬開催の日本リーグに出場を決めており、男女ともに全三井の一翼を担う貴重な戦力だ。高橋さんは「来年はもっと思い切りのいいテニスがしたい」、秋葉さんは「来年こそ三度目の正直で勝ちたい」と思いを語った。

試合結果

全三井	7-6	全三菱	6-1	今西(事)
富崎組	3-6	上本(海上)	11-9	安論(商)
会田組	4-6	田川(海)	6-2	生川(電)
加藤組	2-6	西改(キ)	6-7	伊藤(船)
沼野組	6-4	二村(命)	3-10	関(商)
遠藤組	8-10	野原(生)	6-7	平木(事)
浦上行	6-6	加藤(事)	6-7	城山(船)
魚谷組	10-4	宮崎(商)	6-3	伊藤(船)
落合組	6-6	加藤(マ)	6-7	塚本(銀)
香原組	6-4	高梨(行)	7-5	塚本(銀)
杏谷組	6-6	橋場(銀)	6-6	東(工)
矢崎組	6-6	尾崎(海)	6-6	鍋谷(命)
細貝組	8-4	田元(生)	5-7	木川(生)
高橋組	1-6	渡辺(化)	4-6	大竹(命)
鈴木組	3-6	古村(商)	6-4	泉(命)
遠藤組	6-7	竹花(電)	6-10	伊波(生)
桑原組	6-4	有村(電)	6-6	松川(銀)

元早慶テニス部主将ペア

三井住友海上 会田 翔 さん



全三井の男子一般で先鋒の第一複を任せられた会田さん(二六)と富崎さんは元早稲田大学テニス部主将、富崎さんは元慶応大学テニス部主将を務めた早稲田大学出身の強豪選手で、第一セットは6-3で会田・富崎組を圧倒。会田さんは「僕らも調子は良かったが、及ばなかった」、富崎さんは「相手のサービースに慣れるまで時間がなかった」と振り返る。

「徐々に試合感を取り戻した」との言葉通り、二セット目は互角の戦い。ブレイクの手前までつれるも、4-6で苦汁を舐めた。「毎年出場しているが、敗れたのは初めて。来年はリベンジしたい」と富崎さん。会田さんは「六〇回を数える歴史ある大会なので、これからも出場して、結果を残したい。気持ちを切り替えて、日本リーグに臨む」と意欲を示した。